地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

英国人作家ピーター・タウンゼント原作

「ナガサキの郵便配達」を翻訳出版

この本は、日本人のいや、世界中の人々にとって
平和の教科書になるはずだと確信した。

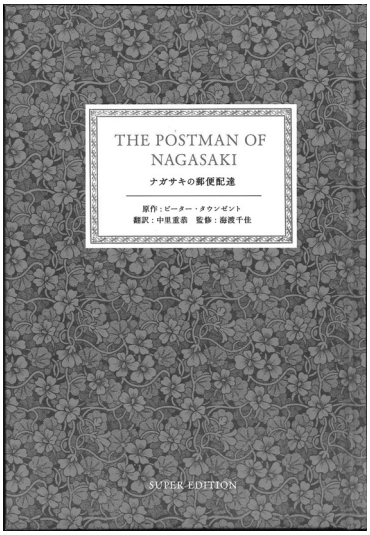
文・スーパーエディション代表　齋藤芳弘

事の始まりは4年前です。友人の映画監督から、「長崎のお爺ちゃんが本を作りたがっているから話を聞いてあげて欲しい」と相談を持ちかけられました。そのお爺ちゃんというのが16歳の時に長崎で郵便配達の途中に被爆した谷口稜曄さんその人でした。

お名前もはじめてなら、広島にも行ったことがない、まして長崎の原爆についてはほとんど何も知らない私に、30年も前に一度出版された、英国人作家ピーター・タウンゼント原作の「ナガサキの郵便配達」というドキュメンタリー小説を翻訳し直して再出版して欲しいというお話しでした。

ともかく30年前に出版された本を読むしかありません。ですから憎き大嫌いなアマゾンに注文せざるを得なく、早速「ナガサキの郵便配達」を取り寄せました。読み始めると、知らないことばかりが次から次へと出てきて、あっという間に読み終わりました。

読み終わったときの感動のような気持ちは初めての経験でした。そして、なんとも言えない充実感のような思いで満たされました。



【ナガサキの郵便配達】
ピーター・タウンゼント（原作）、中里重恭（訳）、海渡千佳（監修）／2018年8月、スーパーエディション刊／ISBN　978-4-915743-16-0／定価：本体809円＋税

私たちは被爆者の人生を一度でも思ったことがあったでしょうか？

よく唯一の被爆国と言う言葉を耳にしますが、私たちは被爆者という方達の人生を一度でも思ったことがあったでしょうか？　被爆とは何か？　原爆が2度にわたり、何故、日本に落とされたのでしょうか？　原爆が長崎に落ちた瞬間のこと。そこで何が起きてどうなったのか。その時、日本政府は？　天皇陛下は？　軍部は？　落としたアメリカ軍兵士は？　そして、終戦とは？　ポツダム宣言とは？　などなど、日本人として、この歳まで何も知らずに生きてきて、恥ずかしくもあり、いま、こうして知り得たことに感謝する以外、何もありませんでした。

この本は、日本人のいや、世界中の人々にとって平和の教科書になるはずだと確信しました。

すぐにでもこのお爺ちゃんに会いたい。監督と一緒に長崎に向かいました。初めての長崎です。お爺ちゃんに会う前に被爆した長崎の街をこの目で確かめるように、70年前、谷口少年が郵便配達をしていた住吉神社近くを歩き回り、意識不明のまま、戸板に載せられて運び込まれたJRの道ノ尾という駅を見に行きました。

そこで偶然にも近くに住んでいる一人の女性から話しかけられました。なんと、彼女は幼い頃に、この駅舎に運び込まれた沢山の被爆した人々の様子を見たそうです。駅舎は新しくなりましたが、当時のままのカタチだそうで、読んだばかりの「ナガサキの郵便配達」の世界が一瞬にして蘇りました。

谷口稜暉さんとお会いし、何故本を再版したいのかをうかがう

翌日、お爺ちゃんと待ち合わせた平和公園脇の被団協の事務所（日本原水爆被害者団体協議）に行きました。お爺ちゃんは、一人で事務所のソファーでうたた寝をしていました。初対面の挨拶を済ませ、何故本を再版したいのかをうかがいました。なんと、私が読んだ「ナガサキの郵便配達」はフランス語からの翻訳で、ピーター・タウンゼントさんが書いた英語の原書とは似て非なるものだとうかがい、英語版から翻訳をして欲しいとのことでした。

目をきらきらと輝かせ、淡々と語る谷口稜暉さんの様子は、まさに70年前に長崎の街の坂道をものすごいスピードで駆け抜けて郵便を配達していた谷口少年そのものです。

被爆直後、瀕死の重傷で生死を彷徨い、その焼けただれた背中をアメリカ軍が撮影した写真によって「背中の赤い少年」として全世界に配信された谷口少年の姿がダブってしまい、目頭が熱くなりました。

私は、この瞬間に、この人のために自分で出来る事は何でもしてあげたい

と決心しました。こうして私の「ナガサキの郵便配達」との長い旅がスタートしました。まさに三十年前、曲がりなりにも一人で出版社立ち上げ、写真集をメインに十数冊の本を上梓してきましたから、活字の本を出版する事などそれほど大変なことではないとこの時は考えていました。

核兵器の全廃と恒久平和の実現のために持続可能な出版活動を模索する

同時に30年前に早川書房がしたことを繰り返すのは嫌だ、わずか3000冊程度の本を出版して、また忘れ去られてしまうのでは平和の教科書の役割が果たせない。高校生のような若い人に読んで貰い、読み継ぐことが出来なくては教科書にはならない。そこで思いついたのが永遠にこの本を作り続ける事は出来ないのだろうかという、とんでもない考えです。

つまり、持続可能な出版活動です。そうだ、寄付を貰いながら本を作り、読んでいただいたら、また寄付をいただく。寄付をする人は平和活動に参加する事になり、一人でも多くの人がこの本を読むことで谷口さんが生涯を捧げて取り組んでいる核兵器の全廃と恒久平和の実現に寄与できるはずだと確信しました。

帰京後すぐに一般社団法人・ナガサキの郵便配達制作プロジェクトを立ち上げました。まず、しなくてはならないことは、原作者であるピーター・タウンゼントさんの遺族であり著作権者のイザベル・タウンゼントさんに出版の許可を得ることです。監督から聞いたメールアドレスに再版したい理由を書きお送りすると、「こちらは何も問題ありません」とあっけなく了解していただきました。

翻訳者探しで難航も、最後には谷口さんのご希望に添うことができた

次は翻訳者を誰にするかと言うこと。始めに白羽の矢を立てたのは、ドナルド・キーンさん。戦争当時、米軍の通信兵として日本兵捕虜の家族に宛てた手紙を翻訳した経験からも適役と思いましたが、高齢を理由にお断りになりました。始めのつまずきです。次にお願いしたのはロバート・キャンベルさん。東大助教授にして、日本文学のオーソリティー、大変興味を持たれましたが過去にフランス語からの翻訳があった事を理由に断られました。二度目のつまずきです。

そんな折に友人に勧められたのがアーサー・ビナードさん、詩人であり、絵本作家、第五福竜丸の絵本を書いていたこともあり三度目の正直とお願いしたところ、「ぜひやりたい」とこれまでのお二人にはなかったお返事をいただき、即決しましたが、このことが後に大変なこととなったのです。

「良い本を作るには時間がかかる。」と言うのが彼の創造哲学のようで、一向に進まないのです。谷口さんの健康のことも気になり始め、あまりにも忙しい事がその理由であると理解するまで、私は彼の講演先を訪ね、その都度話し合いを重ねました。彼は谷口さんをいつでも取材できるようにと長崎にアパートを借り、いよいよ始まると思いきや、取材にも行けない日々が延々と続き3年が過ぎてしまい、昨年の8月30日に谷口さんが亡くなられたのです。

3度目の正直どころか、悔やんでも悔やみきれない最悪の状況となって、これ以上彼を待つことは出来ない。一刻も早く再版を果たし、天国の谷口さんに届けなくては。谷口さんが亡くなられたその日にアーサーさんにお断りをして、以前、古本屋さんで偶然手にした英語版を読まれ、感動のあまり、ご自分の生徒さんに読ませたい一心で、直訳をし、何かの参考にと私にお届けいただいた清泉女子大学の中里重恭英文学教授の原稿を元に出版を急ぐことにしました。

結果的にこの直訳がピーター・タウンゼントさんの原書に一番近い事となり、谷口さんのご希望に添うこととなりました。イギリスから来日していただいたイザベルさんと共同記者会見も開き、少しずつではありますが本は売れ始めています。価格は、長崎に原爆が落とされた8月9日の拘り、809円（税別）もちろん、取り次ぎは地方小です。

来月には、まず長崎市の高校に5000冊を寄贈します。本が出来たのがこのプロジェクトのスタートです。皆様の寄付を頼りに版を積み重ね、本邦初の持続可能な出版活動が始まります。書店の皆様のご支援を伏してお願いいたします。

＊

（さいとう　よしひろ／スーパーエディション代表）

新刊ダイジェスト

※価格は税込（消費税率8%）表示です。

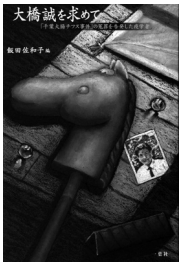
『ようこそ、読書のアニマシオンへ　ー子どもと本をつなぐ46のレシピ』●種村エイ子著

最近、「アニマシオン」という言葉を耳にするようになった。ラテン語を語源とし、知的好奇心を刺激して心を揺り動かすために行われる取り組みで、フランスなどを中心にヨーロッパ南部において様々な分野で応用されているという。鹿児島で図書館、読書運動を続けるグループ「子どもの本かごしま」は、これに学び、子どもたちを本の世界に誘う実践的な取り組みを行ってきた。本書はまさにそのレシピ集である。例えば小学校低学年向きの『どんぐりむらのぼうしやさん』。読み聞かせの後、子どもたちに、物語に登場しない新しい友達を本物のドングリで作ってもらう。

小学高学年向きの「谷川俊太郎になってみよう！」。谷川の詩の一部を空欄にして掲示し、自由な発想で言葉を埋めてもらう。そうしてどちらも、それぞれの思いを聞く。勿論正解はない。楽しく深い仕掛けに乗った子どもたちの賑やかな声が聞こえてくるようだ。そもそも読書とはアニマシオンなのだと思う。

◆ 1,944円・A5判・205頁・**南方新社**・鹿児島・20180705刊・ISBN9784861243844

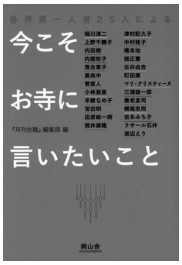
『大橋誠を求めて　－「千葉大腸チフス事件」の冤罪を告発した疫学者』●飯田佐和子著



今から50年以上前に起きた「千葉大腸チフス事件」。医学実験のためにチフス菌をばらまき集団感染を引き起こしたとして、当時の大学病院の勤務医が犯人として逮捕された。そこには見過ごせない多くの科学的な矛盾や疑問があり、またその当然の結果として一審では無罪となったにもかかわらず、最後は自白（相変わらずの密室での）を最大の根拠に有罪が確定し、長期刑に服した。しかし、数多くの科学的な資料が物語るように、彼はまぎれもなく冤罪で、厚生省（当時）と大学とマスメディアの卑劣な無責任体制の、いわばスケープゴートにされたといえる。その意味では、これは決して過去の事件ではない。　この官・学・メディアの強固なトライアングルに、科学者として、なおかつ公務員として敢然と立ち向かった一人の疫学者がいた。彼の名は大橋誠。その大橋誠の姿を、本人の遺書や娘の手記、当時の資料などをもとに改めてたどり直し、現在の澱んだ空気に風穴をあける一冊。

◆ 2,700円・四六判・350頁・**一葉社**・東京・20180811刊・ISBN9784871960748

『今こそお寺に言いたいこと　－各界第一人者２５人による』●「月刊住職」編集部編



高齢化や過疎による檀家の減少、果ては葬儀やお墓の不要論など、お寺は現在、厳しい局面を迎えている。しかし、一般社会はお布施が将来自分たちに果報をもたらすと考え、尊敬の念をもって仏教僧団を支援してきており、仏教社会は一般社会と友好関係を保っていた長い歴史がある。そんな仏教界全宗派全ての住職を読者として1974年に創刊された実務情報誌「月刊住職」。28年前から「寺院住職に直言提言する」を連載し、著名人が寄稿しているが、その中から最近のエッセイが厳選された。政治家、俳優、科学者、作家など各界第一人者による忌憚のない意見が清々しい。信仰は不安から人を守る甲羅なのでは（姜尚中）、寺の鐘を聞くともなく聞く、それだけでも功徳（古井由吉）、「住職」という存在は"同志"としての存在（中村桂子）など、印象的な言葉が溢れ、人生全般についても考察できる多彩な内容である。他に類を見ないユニークさが光り、僧俗を問わず、広く読まれてほしい一冊。

◆ 2,484円・四六判・213頁・**興山舎**・東京・20180615刊・ISBN9784908027611

『しのぶ・あだたらのむかしばなし』●麦わらぼうしの会編著

福島県の、主に県北地域に伝わる伝説や昔話、寺社縁起から材を採って、県内に住む詩人や文学者が子どもたちに向けて書いた物語集。かつて湖だったという信夫山周辺に伝わる、湖の主と皇子との戦いの物語『湖のたたかい』や、森鴎外の【山椒大夫】でよく知られる姉弟の物語の原話とでも言うべき『弁天山の安寿と厨子王』、廃寺に住みこんだ若き修行僧の悲劇『海に沈んだ少年』、山姥ならぬ、一面のすすきの原っぱに出没する鬼婆の話『安達ヶ原の鬼ばばぁ』等々全30話。　『ふしぎな信夫山』の終盤の次のような文章から、現在の時代に生きる語り手が、まるで紙芝居のように、目の前にいる子どもたちに語り聞かせているスタイルを採っていることがわかる。「…信夫山のふもとにある福島県立図書館にも、大きな石があります。こんど福島県立図書館へ行った時に、ぜひ見てください。あの大きな石は、信夫山の上からガラガラドスーンと、転がり落ちてきたのです…」生き生きとした語りの場面が目に浮かぶようである。

◆ 1,620円・210mm × 210mm・256頁・**歴史春秋社**・福島・20180721刊・ISBN9784897579306

『日本縦断客車鈍行の旅　－昭和五十一年夏、旧型客車で稚内から長崎へ』●田中正恭著

機関車が牽引する客車列車。特別な列車を除けば、日本ではもう見ることができません。そんな客車列車が国鉄線上から徐々に姿を消しつつあった昭和51年夏、ひとりの大学生が稚内から長崎まで、鈍行客車列車だけを乗り継ぐ旅に出ました。ただし旅のルートは同じ駅を二度通過しない一筆書き。各駅で入場券を購入し、宿泊はユースホステルという節約マニア旅です。今では無人駅ばかりですが、当時は多くの駅が有人で切符も売っていました。時間が無い時は切符代と返送用封筒を一緒に渡せば、後から自宅まで入場券を送ってくれたといいます。長岡発米原行や豊岡発門司行など今では考えられない長距離鈍行列車が走っていたのも印象的ですし、普通寝台列車も今ではすっかり姿を消しました。鉄道がまだ交通の主役であった時代の貴重な記録。鉄道という小さな窓から描かれた40年前の風景を読み進むにつれ、その間私たちが失ったものと得たものが心の中に消えては浮かびます。

◆ 1,728円・四六判・222頁・**クラッセ**・東京・20180620刊・ISBN9784902841237

売行良好書　期間：2018年8月15日～9月14日

［出荷センター扱い］※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『金足農　感動の軌跡』1000円・秋田魁新報社　(2)『ひとり　句集』2160円・深夜叢書社　(3)『バウムクーヘン』1404円・ナナロク社　(4)『ナガサキの郵便配達』874円・スーパーエディション　(5)『東京の森のカフェ』1404円・書肆侃侃房　(6)『お金からの解放宣言』1944円・かんよう出版　(7)『高校生平和大使にノーベル賞を』1620円・長崎新聞社　(8)『ようこそ、読書のアニマシオンへ』1944円・南方新社　(9)『松浦武四郎入門』1080円・月兎舎　(10)『「学力日本一」の村』1836円・無明舎出版　(11)『だけど　だいじょうぶ』1944円・石風社　(12)『しろさんのレモネードやさん』1512円・吉備人出版　(13)『セミと仲間の図鑑　フィールド版』1620円・トンボ出版

［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『昭和プロレスマガジン　４７』1000円・昭和プロレス研究室　(2)『フェルメール』2160円・ナナロク社　(3)『本の雑誌　４２４号』720円・本の雑誌社　(4)『東京かわら版　９月号』500円・東京かわら版　(5)『金足農 感動の軌跡』1000円・秋田魁新報社　(6)『旅する本の雑誌』1728円・本の雑誌社　(7)『絶景本棚』2484円・本の雑誌社　(8)『東京の森のカフェ』1404円・書肆侃侃房　(9)『パズル通信ニコリ　Ｖｏｌ．１６４』972円・ニコリ　(10)『ねむらない樹　ｖｏｌ．１』1404円・書肆侃侃房

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『短歌ムック　ねむらない樹　ｖｏｌ．１』1404円・書肆侃侃房　(2)『こないだ』2160円・編集工房ノア　(3)『極秘諸国城図　図版集』3240円・山陰中央新報社　(4)『「学力日本一」の村』1836円・無明舎出版　(5)『松浦武四郎入門』1080円・月兎舎　(6)『ナガサキの郵便配達』874円・スーパーエディション　(7)『探訪栃木山』2700円・随想舎　(8)『新訂　ジュニア版　琉球沖縄史』円・編集工房東洋企画　(9)『蘇る記憶３』1201円・奥会津書房　(10)『島津日新公いろは歌』540円・高城書房　(11)『埼玉の城』2700円・まつやま書房

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

▼先般の北海道胆振東部地震で被災された皆様にお見舞い申し上げます。弊社取引先在北海道出版社の方々からは状況について多くの報告をいただきました。そのうち雑誌発行出版社の社員の方がおひとり亡くなられたとのことです。この場を借りてお悔やみを申し上げます。

▼夏の暑さも影響して、のようですが、地方出版で活躍してきた方々の訃報が届いています。先月号でも当欄にてお伝えしました、山口県周南市のマツノ書店店主・松村久氏に加え、もうおひとりは、沖縄の出版舎Ｍｕｇｅｎ社主、上間常道氏です。享年76歳。沖縄タイムス在職中は、出版部を率いて、【沖縄大百科事典】や【沖縄美術全集】の編集を担当し、退職後は出版舎Ｍｕｇｅｎを創業、【祖神（うやーん）物語　―琉球弧　宮古島　狩俣　魂の世界】本体4,000円（ISBN978-4-905454-22-9）等々、沖縄の歴史や文化関係書を30点あまり刊行してきました。ご冥福をお祈りいたします。

▼今秋も大阪駅前・うめきたシップホールにて**「Under 35 Architects exhibition 35歳以下の若手建築家による建築の展覧会2018」**が開催されます。2018年10月19日（金）～29日（月）12:00～20:00［11日間］期間中無休。入場料1,000円。関連図録**【Ｕ－35　35歳以下の若手建築家による建築の展覧会2018】**本体926円（ISBN978-4-905436-14-0）は弊社にて取り扱っております。

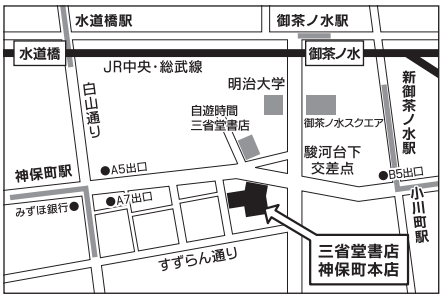
郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店　営業のごあんない

神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。